



学校だより 11月号

石川小学校 学校教育目標
育てます。「石川魂」

令和3年10月30日
横浜市立石川小学校
校長 寺園 淳

全校が一つ「いってらっしゃい」

校長 寺園 淳

時折吹く北風に、落ち葉が勢いよく踊りだします。秋の深まりを感じる季節になりました。緊急事態宣言が解除され、私たちの生活が新しいスタイルが始まろうとしています。10月4日にお知らせしたとおり、石川小学校の教育活動も、徐々にその幅を広げていこうと準備を進めています。感染症対策を怠ることなく、子どもたちが安心して学べるように努めてまいります。

10月7日午後10時41分ごろ、千葉県北西部を震源とする地震が発生しました。横浜でも震度5弱の揺れが観測されました。この大きさは10年前に東北地方を襲った東日本大震災以来だそうです。翌日、子どもたちは「すごく揺れて怖かった」「寝ていたけれど起きちゃったよ」と、その時の感想を口々に伝えてきました。学校では定期的に避難訓練を実施しています。地震や火災の発生を想定しての命を守るための学習です。この学習で学んだことが、実際に地震等が発生したときに少しでも生かされるとよいと考えます。

10月14日、今年度初めての校外学習として、5年生が金沢区にある野島公園に出かけてきました。当日は実行委員による出発式から始まりました。全員で

スローガン 「㊦りのり全力 ㊧ぶんたちで時間を守って ㊨っすぐに の仲間」

を確かめ合い、意気込みを発表する等、司会の上手なリードで式はスムーズに進んでいきました。そして式が終わりに近づいたとき、石川小学校恒例の出かける学年が、学校に残る学年に対して、声をそろえて元気よく「いってきます」と伝えます。するとそれぞれの学年の子どもが、ベランダや教室の窓から「いってらっしゃい」と大きな声で返します。私は、全校が一つになっている、この雰囲気がとても好きです。石川小の良き伝統としていつまでも大切にしてほしいです。

5年生の活動はグループに分かれ、ウォークラリーやいかだ体験を行いました。ウォークラリーでは、地図を片手にグループでポイントを回りました。中には予定の時間以上に遊んでしまい、慌てて残りのポイントを回るグループもあったようです。いかだ体験は、畳一畳ほどの発泡スチロールの板4枚を縄でつなぎ合わせ、いかだを組み立てることから始まりました。係の方から説明を聞いた後、それぞれが思い思いに縄を手にし、板を繋ぎ合わせようとしていました。当然、一人ひとりが勝手に行っているため、うまく作業が進みません。試行錯誤を繰り返していると、グループの中から作業を指示するリーダーが現れました。するとどうでしょう。なかなか進まなかったいかだづくりが順調に進みだしました。組み立てを終えると早速、海へ。一つのいかだに4、5人で乗り、息を合わせ沖へと漕ぎ進んでいく姿は、とても楽しそうに見えました。

新型コロナウイルスの影響により宿泊することはできませんでしたが、自分や友達の思いを大切に協力する姿を多く見ることができた体験学習でした。子どもたちは体験を通して多くのことを学びます。11月には6年生、4年生が体験学習を実施します。特に6年生には小学校生活最後の宿泊体験学習なので、より心に残る取り組みにしてほしいと願っています。